

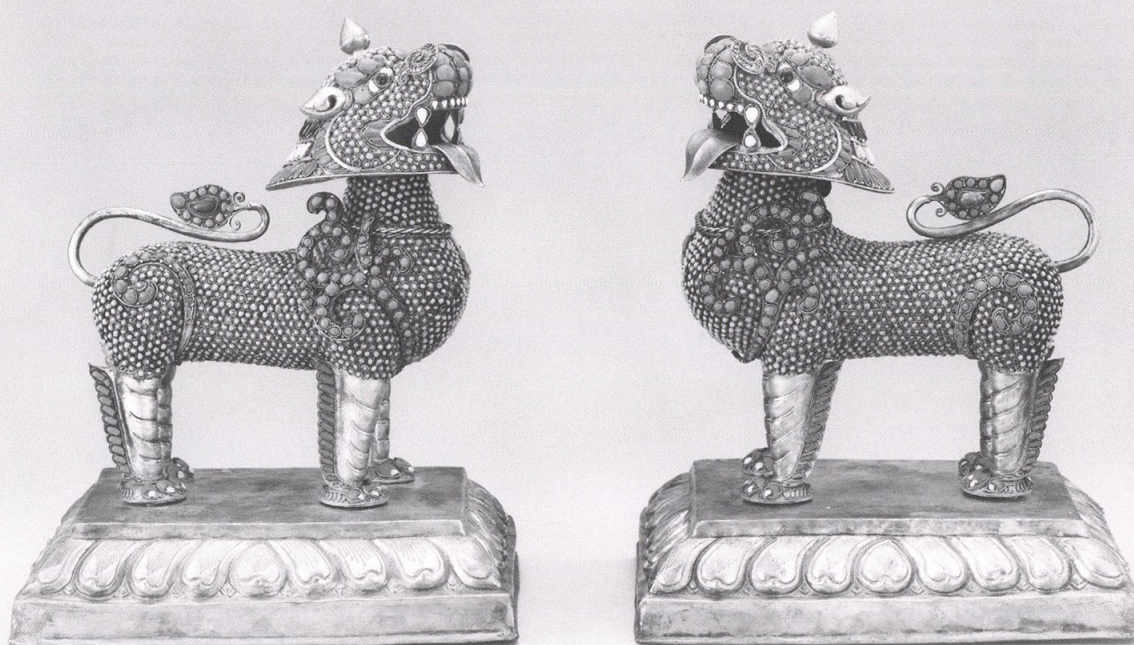
世界を巡る

古今東西の品々を集めて



世界を巡る 古今東西の品々を集めて

Art of Various Eras and Countries
from Around the World



平成30年1月13日(土)～4月8日(日)
January 13 (Sat.)—April 8 (Sun.), 2018

宮内庁三の丸尚蔵館

The Museum of the Imperial Collections,
Sannomaru Shōzōkan

ごあいさつ

当館では、皇室が行われた国際親善を中心とするテーマに基づいて、これまで幾度かの展覧会を開催してきました。諸外国の元首や高官から皇室へ贈られた各地の珍しい品々は、当館の収蔵品の性格を特徴付ける一つとなっています。これらの品々はある意味ではその国を象徴する役割を担い、私たちはそれらを見ることを通じて異なる文化へと思いを馳せるのです。

さて、インターネットを始めとする情報化社会の進展によって、私たちは十数年前に比べてはるかに容易に海外事情を知ることができるようになりました。しかし、実際にその土地を初めて訪れることによって、その独特な風土や国民性にふれる一連の経験は、まさに百聞は一見に如かずの言葉通り、新鮮な驚きと感動をもたらしてくれるものです。美術工芸品を通じて出会う国々の姿もまた、政治や社会問題のニュースによって伝えられる姿とは異なる印象を私たちに与えてくれるのではないのでしょうか。今日まで引き継がれる伝統文化や民族色豊かな造形とは、すなわちそれぞれの国が歩んだ歴史や人々の日常の生活に根ざしたものだからです。異文化への素朴な関心を生み出す未知の造形芸術との出会いは、私たちの想像力を広げる美術鑑賞の醍醐味の一つと言えるでしょう。

本展では世界各地の様々な作品を一堂に集め、これまでに紹介した中でも特に造形的に興味深い作品や、今回が初紹介となる貴重な作品、今までに取り上げることができなかった国々の作品などにも注目します。また、それらの品々が作られた時代も紀元前から現代にいたるまで幅が広く、それぞれの歴史的な特質に迫ります。それでは、世界を巡る美術探検へと旅立ちましょう。

平成30年1月

宮内庁三の丸尚蔵館

Foreword

Our museum has held several exhibitions based on themes focusing on the international goodwill carried out by the Imperial household. The rare objects given as gifts to the Imperial household from the heads of states and high officials of various foreign countries, are one of the main areas that characterize our museum's collections. In a sense, these pieces act as symbols of their countries, and enable us to think about their different cultures by viewing them.

Because of the development of information society using methods such as the Internet, we are able to get information about foreign countries much more easily than ten or so years ago. However, the experience of actually visiting a country for the first time and come in touch with their unique cultural climates and national characters, gives us a fresh surprise and deep impression, just as the proverb, "Seeing is believing". The impressions about the countries that we encounter through their art works may be quite different from their aspects seen through news about politics and social problems. This is because the traditional cultures and native forms of art passed down to the present, are based on the history of each country and their people's daily lives. Encountering unknown works of art that generate simple interest towards foreign cultures, is one of the true pleasures of art appreciation widening our imaginations.

In this exhibition, we are introducing various works from around the world, focusing on especially interesting forms among those we have already introduced in the past, valuable works that will be displayed for the first time, and also works from countries that we could not exhibit before. Furthermore, the dates that these works were created range from the pre-era to the present day, and we focus on each of their historical features. Let us depart for a journey of exploring art around the world.

January, 2018

The Museum of the Imperial Collections,
Sannomaru Shōzōkan

宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 出品作品一覧 (第79回 世界を巡る—古今東西の品々を集めて)

作品番号	作品名	作者名	員数	時代	ページ
1	草花文飾壺		一点	1985頃	p. 8
2	螺鈿鳳凰文花瓶	金奉龍	一点	1970頃	p. 9
3	銀製蓋付飾壺		一点	1974頃	p. 11
4	蒟醬花文水入鉢		一対	1932頃	p. 10
5	ベンジャロン焼蓋付壺		一点	1987頃	p. 11
6	粉彩八宝文皿		一点	19世紀	p. 12
7	粉彩博古図花瓶		一対	19世紀	p. 12
8	獅子置物		一対	1960頃	p. 13
9	銀製茶器		一式	1957頃	p. 15
10	トオ (儀式用仮面)		一点	1986頃	p. 14
11	銀製打出鉢		一点	1965頃	p. 15
12	赤地黒彩壺	イラン、ケルマーン州出土	一点	紀元前2500頃	p. 18
13	青釉黒彩文壺	イラン、ゴルガーン地方出土	一点	12～13世紀	p. 19
14	木象嵌宝石箱		一点	1985頃	p. 16
15	銀製花瓶・煙草箱		三点	1985頃	p. 17
16	リュステム・パシヤ・ジャーミイ	ヒュセイン・ヒュスヌー	一点	1880～90年代	p. 20
17	把手付壺	ヨルダン、ペトラ出土	二点	紀元前1～紀元後1世紀	p. 18
18	各国ステレオ写真	カール・ハインリッヒ・ヤコビほか	七三九枚のうち	19世紀後半	p. 22-23
19	ステレオグラフィオスコープ	ロンドン立体鏡会社	一点	19世紀後半	p. 21
20	羊飼いの家族	ソロモン・コロディ	一点	19世紀後半	p. 25
21	ハーグ旧宮殿図		一点	18世紀	p. 26
22	把手付線文土器壺	キプロス島出土	一点	紀元前600～476年	p. 32
23	赤百合細工置物		一点	1974頃	p. 28
24	自在式魚置物		二点	20世紀	p. 29
25	鳥図蓋付飾壺	ヘレンド	一点	1985頃	p. 31
26	青釉少年図花瓶	セーヴル国立製陶所	一点	1892	p. 30
27	ブリュッセル市庁舎図	(原画) レッデルボス	一点	18世紀	p. 27
28	銀製楊枝入れ		一点	19世紀	p. 29
29	ジェセル王の壺		一点	紀元前27世紀	p. 33
30	猿形ビーズ製腰掛		一点	1973頃	p. 35

31	諸物図壁掛		一点	1974頃	p. 34
32	仮面		一点	1952	p. 36
	仮面		一点	1966以前	p. 36
33	ベニンのウゴのアボギデイ像		一点	1974頃	p. 37
34	ティキ神像		一点	1975頃	p. 38
35	イヌイット石像		一点	1970頃	p. 38
36	ジャガー形石臼		一点	7～9世紀	p. 39
37	街並風景	ホセ・アントニオ・ヴェラスケス	一点	1974	p. 40
38	アステカの暦石文鎮		一点	1923頃	p. 41
39	色絵花文鉢・色絵花文水差	アルファレリア・ポルテーニャ	二点	1986頃	p. 42
40	菊折枝置物		一点	1988頃	p. 43
41	彩画幾何文様橋形双注口壺		一点	8～11世紀	p. 44
42	彩画人物文様把手付壺		一点	8～11世紀	p. 44
43	山と岩	ウィリアム・サーモン	一点	1967頃	p. 46
44	ティキ神像・宝箱		一組	ティキ：18世紀、箱：1956頃	p. 45

目次

2	—— ごあいさつ
3	—— Foreword
5	—— 図版・解説
6	Seeing is believing. (百聞は一見に如かず)
8	アジア / Asia
16	中東 / Middle East
21	ヨーロッパ / Europe
24	世界を覗く
33	アフリカ / Africa
38	北・中央アメリカ / North and Central America
42	南アメリカ / South America
45	オセアニア / Oceania
47	—— 出品目録
49	—— List of Exhibits

凡例

- 一、本図録は、平成30年1月13日(土)～4月8日(日)までを会期とする展覧会「世界を巡る—古今東西の品々を集めて」の解説図録である。
- 一、会期中に前期(1月13日～2月25日)と後期(3月3日～4月8日)で展示替えを行う。
- 一、本展覧会に出品する作品はすべて三の丸尚蔵館の所管である。
- 一、出品作品の国名は基本的に通称で記載した。
- 一、出品作品の寸法の単位はcmで、原則として立体作品は径(最大径)、高さ、または奥行×横幅×高さ、平面作品は縦×横の順で記載した。
- 一、本展覧会の企画は、三の丸尚蔵館学芸室主任研究官・岡本隆志が担当した。
- 一、本図録の作品解説は、出品番号1～4、8～11、14、15、32、34、44を同主任研究官・五味聖、20、21、27、37、43を同研究員・斉藤全人、18、19を同研究員・木谷知香、5～7、12、13、16、17、22～26、28～31、33、35、36、38～42を岡本が担当した。その他、6～7ページの「Seeing is believing. (百聞は一見に如かず)」を岡本、24ページの「世界を覗く」を木谷が担当した。
- 一、本図録掲載の写真は、当館が保管するフィルムおよびデジタル画像等による。このうち、デジタル画像については福島省、佐野順一(株式会社インフォマージュ)が撮影した。



Seeing is believing. (百聞は一見に如かず)

「世界を巡る」と題した本展覧会では、アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、北中米、南米、オセアニアの各地域から出品作品を選び、文字通り、展示品による世界周遊を目指した。たった10分間で世界を回る(実際には展示室を回るわけだが)、そんな贅沢な展覧会だ。出品作品には、美術館や博物館で展示されていてもおかしくない近現代の絵画作品から考古作品、珍しいアンティークの工芸品まで、時代もジャンルも様々なものが含まれている。これらのほとんどは明治から大正、昭和にかけて、各時代の天皇や皇后へ海外の元首や高官から贈られた品々であり、いずれも贈り主の国々の歴史や文化を象徴するものだ。この展覧会、いささか異国情緒があり過ぎるくらいはあるが、はるばる外国から当館を訪れた人にも皇室と諸外国とのご交際の広さを理解してもらおう機会になればと考えている。

さて、本展で紹介した《ステレオグラフィオスコープ》(出品番号19)は海外からの贈進品とする明確な伝来はなく、それらのなかではやや異質な一点である。しかしながら、19世紀後半という製造年代や皇室に伝えられたものであることを考え合わせると、明治天皇が海外事情を把握されるために用いられた品の一つであろうと推測できる。ステレオ写真はステレオグラフィオスコープ(またはステレオスコープ)を通して見る写真で、同一の被写体をわずかに異なる角度から二度撮影し、その微妙にずらされた二枚の写真を左右別々の目で見ることによって、画像が立体的に見える仕掛けとなっている。当館に引き継がれた《各国ステレオ写真》(出品番号18)は、アメリカ大陸と欧州各国の風景、風俗、産業等を写したもので、ナイアガラの滝のような雄大な自然の景色から、ニューヨークのブロードウェイのモダンな街並み、ヨーロッパの石造りの歴史的建造物、1870～71年の普仏戦争の戦跡など多岐にわたる内容を含む。それらの撮影者・制作販売者はそれぞれ異なり、複数箇所で購入されたステレオ写真が様々なルートから皇室へと納められたのではないかとみられる。当館にはこのほかにも、在英国公使館付一等書記官見習として渡英した末松謙澄から明治12年(1879)頃に献上された、英国王族ほか外国君主や欧州各国の政治家、ロンドンやその郊外の風景写真を収めた《英国各種写真帖》などがあり、このことは海外の様々な情報が文字だけでなく、写真による視覚情報によっても明治天皇のもとへ届けられていたことを示している。実際に海外の土地を訪問されることがなかった明治天皇は、これらの写真から現地の様子を視覚的なイメージとともに知悉されたであろう。

たしかにこの当時、陸続きでない外国へ行くことなど、暇と金をもて余した富裕層が職業的な船乗りでなければどの国でも難しかった時代であり、その他大勢は絵画か新発明の写真を通じてしか、外国の風景を見ることができなかった。より即物的に、対象の姿かたちをありのままにとらえた点で人々の好奇心な眼差しを集めた写真は、技術の進歩とともにヨーロッパを起点に爆発的な広まりをみせる。だが、四角い枠に切り取られたモノクローム写真の情報だけでは、やはりどこか物足りなかったのかもしれない。19世紀半ば以降の写真技術の急速な発達・伝播とほぼ同時期にヨーロッパで隆盛を迎えた万国博覧会は、多くの人々のホンモノを見たい素朴な欲望を叶えた。万国博覧会については、全地球規模での植民地化を推し進めた帝国主義国家間の文化・産業における覇権争いとみるポストコロニアリズム研究に基づく史的評価もあるが、他方では未知の文物にふれたいという大衆の圧倒的な支持があったことも否定しがたい事実である。会場に陳列された物珍しい品々を見ることを通して、当時の人々は未だ訪れたことのない「世界」を想像したにちがいない。

話は変わって19世紀の万国博覧会の時代から現代へと移る。異文化への眼差しはどう変容したのかと考えた際、昨年逝去されたある研究者のことを思い浮かべた。「民族芸術学」の提唱者として知られる美術史家の木村重信氏は、日本、中国、西ヨーロッパを研究対象の中心とする従来の美術史の姿勢に疑問を抱き、それまで学問的に交わることのなかった民族学と芸術学の融合に挑み、世界各地のフィールド・ワークを通じて、それぞれの地域の文化伝統に根ざした普遍的な美の在り様を考察された。同氏曰く、

このようにわが国の学問は和・漢・洋に一方的にかたよっている。和は日本、漢は中国、洋は西洋である。したがってこれらに入らない領域はほとんど無視されている。一般歴史だけでなく、美術史でも事情は同じである。わが国の美術史家のほとんどは日本美術や西洋美術の研究者であり、東南アジアやイスラーム圏の美術を研究する人はきわめて少なく、アフリカやオセアニアの美術を対象とする研究者はほとんどいない。(註)

本展出品作の半数以上は、木村氏が研究対象とした「和・漢・洋」に入らない領域の美術である。同氏の言はけっして「和・漢・洋」を貶めているわけではないが、世界にはそれ以外の地域の方がはるかに多く、同様に作られてきたものも少なくないはずだ。だが、それらは美術史という学問の世界ではほとんど無視されてきた分野ということになる。無視であるから、これまであまり関心を向けられてこなかったことを意味しており、おおかたの美術史家には価値判断の目安となるものがない。ありていに言えば、見たことがないからよくわからない。そうなればその他大勢の人々にとってはしめたもので、「専門家でないからどうせ見てもわからない」と臆する必要などなく、まずは真っさらな目で見てほしい。「こういうものは〇〇だ」という先入観を抜きにして、目の邪魔をする耳学問もどこかに置いておいて見てみる。美術を見るのに余計な制約から解放されているから、目の付け所が変わって意味がわからなくても案外面白いところに気が付いたりする。金工品ならば金属の種類に加えて鑄造や鍛造、加飾表現をする彫金と色々な作り方があり、やきものも土器から陶器、磁器までの種類と土や釉薬、焼成温度など諸々の違いがある。それぞれの材質や加工による風合いの違いは、作品を間近に見ることで気が付くことである。また、それらの技術によってあらわされた作品のかたちや文様、色彩表現は、地域ごとにさらに千差万別である。ある作品に興味をわいたら、さらにその背景にある文化や歴史を調べてみる。そうした鑑賞体験を通じて、いつの間にか、世界の多様な造形表現にふれることができる。

(岡本隆志／当館学芸室主任研究官)

(註) 木村重信『世界を巡る美術探検』(思文閣出版、平成24年)の「あとがき」から引用。本展のタイトルを含め出品構成など、本書から示唆をいただきました。ここに記して学恩に感謝いたします。



1
インド
草花文飾壺

1点

1985年頃
象牙、象嵌
径17.2、高44.0

蓋付の飾壺で、胴部を丸く造り、細長い首を付ける優美な形である。胎は金属で、表面に象牙の細片を貼り付けて、黒色の樹脂を塗り込め、表面を平滑に研ぎ出して花文様を表す。文様を区切る界線には金属線が用いられている。蓋と基台部分には象牙を彫刻して貼り合わせ、蓮弁の形に装飾している。その器形や細やかな花文様、象嵌、牙彫などの工芸技術は、16世紀のムガル帝国の時代に花開いたインド＝イスラム文化の伝統を受け継ぐものである。昭和60年(1985)11月に公賓として来日したインド国首相ラジーブ・ガンジーより昭和天皇・香淳皇后へ贈られた品である。

2

韓国

螺鈿鳳凰文花瓶

1点

金奉龍

1970年頃

金属胎、漆塗、螺鈿

径26.0、高22.2

真鍮で器の形を作り、表面を漆塗りと螺鈿で華やかに装飾した花瓶である。螺鈿には鮑貝や白蝶貝など輝きや色彩の異なる数種の貝板が用いられている。貝は、糸鋸によって文様に切り抜かれ、曲面の各所に巧みに貼り付けられている。朝鮮半島において、高麗時代12世紀頃には細かな貝片による螺鈿の優品が作られており、李朝時代16世紀頃からは比較的大きな貝板を用いた牡丹唐草文が流行し、わが国にも影響を与えた。本作の朱や黒の色彩や螺鈿の牡丹唐草文は、この李朝螺鈿の装飾を伝統的に引き継ぐものである。本作を手がけた金奉龍(1902~94)は、その螺鈿技術により韓国の重要無形文化財に認定された作家である。昭和45年(1970)2月、新任の駐日大韓民国特命全權大使李厚洛夫妻より昭和天皇・香淳皇后へ贈られた品。



4
タイ
蒟醬花文水入鉢 1対
1932年頃
漆塗、蒟醬
各径62.0、高58.5

受け台の上に丸底の鉢を据える、大形の水入れである。竹で編み上げた素地に漆が塗られており、その外側に蒟醬きんまと呼ばれる技法で文様を表している。蒟醬とは漆塗りの上面に文様を線刻して、その凹みに色漆を充填して文様を表す技法で、タイやミャンマーにおいて古くから行われている。現在では、朱の他に黄や緑などの色漆を用いた華やかなものが主流となっているが、本作のように黒と朱の二色による花文様を表す手法は、タイ国内では古くより漆器産地として知られるチェンマイを中心に、伝統的に制作されてきたものである。伝来によれば、昭和7年(1932)にタイにおいて日本美術展覧会が開催された折に、その名誉会長であり、タイ国交通商務大臣であったカンペンベツ王子より、記念として昭和天皇・香淳皇后へ贈られた品である。



5

タイ

ベンジャロン焼蓋付壺 1点

1987年頃

磁器

径22.7、高34.0

白磁に黒彩を地色にして、赤や青、緑、黄色の色絵と光沢のある金彩による華やかな花唐草文様で埋められた飾壺。胴部の前面と背面には、タイの王室であるチャクリー王朝の紋章と、わが国の皇室の菊花紋章が描かれる。摘みの下に五段の円形が重なる仏塔の形状に似た蓋がつく。昭和62年(1987)9月に公賓として来日したタイ国ワチラロンコーン皇太子殿下(現在のラーマ10世陛下)より昭和天皇・香淳皇后へ贈られた。



3

カンボジア

銀製蓋付飾壺 1点

1974年頃

銀、鍛造、ニエロ

径15.8、高23.2

薄い銀板を器に成形し、打ち出しにより細やかな文様を付けた蓋付の飾壺である。蓋の摘みは蓮の形で、蓋から胴部にかけて縦筋の界線で区切り、交互に仏像と炎の化身像が配される。器の高台にも蓮弁が配され、全体に仏教的な装飾で飾られた品である。ニエロと呼ばれる黒色の合金をごく薄く地紋の部分に塗布し、文様を際立たせている。昭和49年(1974)2月、カンボジア国大統領ロン・ノルより、御結婚50年を迎えられた昭和天皇・香淳皇后へお祝いの品として贈られた。



6
中国
粉彩八宝文皿 1点

19世紀
磁器
皿：径44.0、高8.6

中国の陶磁器では長い歴史の中で生み出された吉祥文様を器面の装飾として用いてきた。出品番号6には、五彩と粉彩の技法によって、八吉祥（法螺・法輪・宝傘・白蓋・蓮華・宝瓶・金魚・盤長）が描かれる。これらは仏教的な吉祥物で、日本では八宝文とも呼ばれる。裏面高台内には、清朝光緒年間（1875～1908）の製品であることを示す、「大清光緒年製」の赤絵銘が入る。出品番号7は陽刻と粉彩で、古い器物を描く博古図が表わされた花瓶である。様々な吉祥の意味が含まれており、例えば花瓶に花などを挿す図様は、中国語の音韻から「平安」の意味となる。出品番号6は、昭和54年（1979）4月に来日した中華人民共和国全国人民代表大会常務委員会副委員長鄧穎超より昭和天皇へ献上された。鄧穎超は同国國務院総理周恩来夫人。出品番号7は、明治24年（1891）1月、清国特命全權公使黎庶昌より明治天皇へ献上された。

7
中国
粉彩博古図花瓶 1対

19世紀
磁器
各径23.5、高57.5





8
ネパール
獅子置物 1対
1960年頃
真鍮、トルコ石、珊瑚
各20.4×25.8×31.7

珊瑚やトルコ石などの貴石を密に象嵌した獅子形の置物で、珊瑚による赤い鼻面、頭頂部の宝珠形に特徴がある。蓮華を打ち出した金属製の台座の上に固定されている。舌を出した一対の獅子像は、本作のように細工の尽くされた置物のほか、石像としてヒンドゥー教寺院の入り口に配置されるなど、魔除けあるいは守護像としてネパール国内で広く親しまれている。昭和35年(1960)4月に国賓として来日したネパール国マヘンドラ国王、ラトナ王妃より昭和天皇へ贈られた品である。



10
 ブータン
 トオ（儀式用仮面） 1点
 1986年頃
 紙粘土、彩色ほか
 27.0×27.0×17.0

ブータンでは仏教が生活に深く根ざしており、その文化には仏教が色濃く反映している。特に毎月の10日には、8世紀後半の高僧ゲル・リンポチェを祭るツェチュ祭と呼ばれる華やかな法要が各地で営まれ、そこではチャムと呼ばれる仮面舞踊が必ず演じられる。この舞踊では、骸骨や悪霊、動物や男女などの様々な色彩豊かな仮面が用いられ、仏教の教義に裏付けられた内容が展開していく。本作は、この仮面舞踊で用いられる代表的な仮面の一つで、トオと呼ばれる。三つ目をかっと見開き、大きく口を開けて牙をむき、髭や眉は炎となり、髑髏の頭冠を付けた忿怒の形相は、ゲル・リンポチェが変化した一つの姿でもあるという。原型に紙粘土や布を貼り重ねて型抜きで成形し、表面には彩色を施し、頭髪には青のフェルトを筒状にして取り付け、六色の龍文の綾裂で装飾している。昭和61年(1986)3月に来日した外務大臣を通じて、ブータン国ジグミ・シンゲ・ワンチュク国王より昭和天皇へ贈られた品である。



9

パキスタン
銀製茶器 1式

1957年頃
銀、彫金
盆：径25.3、高1.5、
水差：径13.2、高21.7、
カップ：各径4.2、高5.3

銀製の茶器セットで、蓋付の水差、6点のカップと盆の一揃いである。いずれも鍛造により器の形に成形して、表面の全体に唐草文を彫金しており、特に盆の中央には、パキスタンの国章が取り付けられている。収納箱の商標から、パキスタンの最大都市であるカラチに所在する銀器店、Kashmir Silver Worksの製品であることが示されている。昭和32年(1957)4月に国賓として来日したパキスタン国首相フセイン・シャヒーード・スラワルディ夫妻より香淳皇后へ贈られた品。



11

ラオス
銀製打出鉢 1点

1965年頃
銀、鍛造、ニエロ
径26.1、高22.4

銀の薄板を器の形に成形して、蓮弁の形を打ち出した鉢で、高い高台をつける。各蓮弁の内側には火炎の連続文様を細やかに打ち出し、地紋や火炎の細かい線の部分に、ニエロと呼ばれる黒色の合金を象嵌している。本作はラオスで制作された作品で、出品番号3のカンボジアの作品や、本展では出品はないが、タイにおいても、本作と同様の打ち出しとニエロによる銀製品が伝統的に作られている。このような銀器の表現と技法がインドシナ半島の各国に共通していることが示されている。昭和40年(1965)4月に公賓として来日したラオス国ヴォン・サヴァン皇太子同妃より昭和天皇へ贈られた品である。



14

シリア

木象嵌宝石箱 1点

1985年頃／木象嵌、象牙ほか
20.0×29.3×7.6

出品番号14、15は、昭和60年(1985)3月に来日した同国外務大臣を通じて、シリア国大統領ハーフィズ・アル=アサド夫妻より昭和天皇・香淳皇后へ贈られた品である。出品番号14は木象嵌の宝石箱。細かな幾何学文の部分は、色の異なる数種の木材や象牙、緑に染めた角材を、断面が三角形や菱形の細長い棒状に加工し、これらを木口の面に文様が現れるように接着して一つの塊とし、これを数ミリの厚みに挽いて薄い文様の板をつくり、これを素地面に貼り付ける寄木の手法で作られている。また、部分的に貝片が象嵌されている。このような木象嵌の技法は、西アジアがその起源と考えられており、この工芸技術がシルクロードを経てわが国に伝えられたことは、古くは正倉院宝物にも示されている。また、出品番号15は、銀線細工による一対の花瓶と煙草箱のセット。細い銀の薄板を折り曲げて鑲付し、レースのような繊細な透かし模様を作るとともに、器の形に作り上げている。いずれもシリアの優れた工芸技術を伝える品々である。



15

シリア

銀製花瓶・煙草箱 3点

1985年頃

銀線細工

花瓶：径8.4、高23.3、

煙草箱：11.0×11.0×6.0

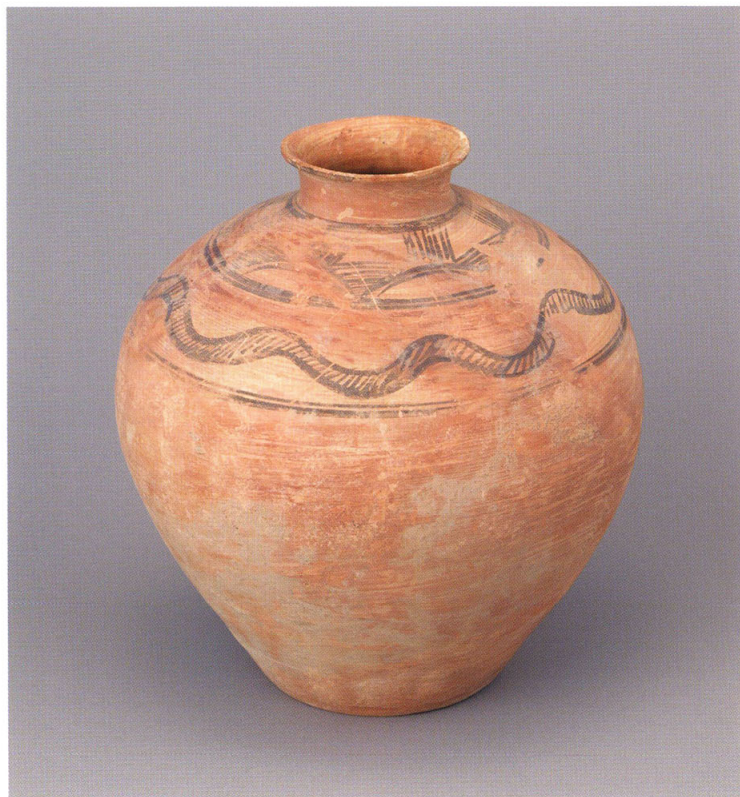


煙草箱



17
ヨルダン
把手付壺 2点
ヨルダン、ペトラ出土
紀元前1～紀元後1世紀
土器
(大)径8.7、高17.6、(小)径5.5、高13.1

滑らかに磨かれた器面と優美な器形からなる、この大小の把手付壺が出土したペトラ遺跡は、ヨルダン西部に紀元前2世紀から紀元後1世紀頃を中心に隊商交易によって繁栄したナバテア王国の首都であった。ペトラ遺跡からは土器工房址も発見されており、同地が消費地だけでなく製作地としてもすぐれた土器製作の技術があったことを物語っている。昭和57年(1982)12月に来日したヨルダン国王フセイン1世より昭和天皇へ贈られた品。



12
イラン
赤地黒彩壺 1点
イラン、ケルマーン州出土
紀元前2500年頃
土器
径28.8、高32.5

イラン南東部ケルマーン州の出土品で、赤褐色の化粧土をかけ肩部に黒色顔料で幾何学文様が描かれている。同地域を含むイラン高原南東部はメソポタミア、中央アジア、ベルシア湾岸地域、インダス川流域を結ぶ交易ルート網の結節地にあたり、この壺が作られた紀元前2500年頃は都市文明の形成期前後であった。昭和49年(1974)5月に来日したイラン国皇族シャハラーム皇子同妃より昭和天皇へ贈られた。



13
 イラン
 青釉黒彩文壺 1点
 イラン、ゴルガーン地方出土
 12～13世紀
 陶器
 径14.3、高22.6

イスラーム陶器は7世紀以降の広大なイスラーム世界各地で華やかな展開を見せた。特に現在のイランの国土は釉薬や彩色の材料となる鉱物資源に恵まれ、12～13世紀のセルジューク朝の支配下ではイランの伝統に基づきながら新しい技法や装飾表現を生み出した製作地が栄えるようになった。本品が出土したイラン北部、カスピ海に近い都市ゴルガーンもその一つとして知られる。

コバルトやマンガンを用いた黒色彩色により胴部に点状文様を描き、その上から青色に呈色する釉薬を掛けた把手付壺で、銀化と呼ばれる化学変化により釉薬の表面が虹色に見え、青釉の美しさとともに独特の魅力を与えている。昭和49年(1974)に昭和天皇と香淳皇后の御結婚50年のお祝いとして、イラン国皇帝モハマッド・レザー・シャー・パハラヴィーより贈られた品である。



16

トルコ

リュステム・パシャ・ジャーミイ

1点

ヒュセイン・ヒュスヌー

1880～90年代

キャンバス、油彩

73.6×107.5

円柱とアーチが連なる仄暗い回廊にターバン姿の人物三名が佇んでいる。奥の壁面には緻密な文様のタイルが嵌め込まれ、入り口上部には装飾的なアラビア文字が書かれている。遠近法と明暗の対比を意識した写実性の強い油彩画である。

本作は、エルトゥールル号事件として知られる、明治23年(1890)に和歌山県串本町沖で発生したオスマン帝国軍艦遭難の生存者を本国へ送り届けた軍艦比叡艦長田中常綱に、オスマン帝国皇帝アブドゥル・ハミト2世が明治天皇への感謝のしるしとして託した、贈進品の一つに該当すると推測される油絵である。絵の題材は、イスタンブールのリュステム・パシャ・ジャーミイ(ジャーミイとはトルコ系の大規模なモスク)で、イズニック・タイルの華麗な装飾で有名なモスクである。油彩技法や様式的な特徴からも、この贈進が行われた当時の制作と推定されるが、画面左下にサインのある画家ヒュセイン・ヒュスヌーについての詳細は不明である。



19
イギリス
ステレオグラフィスコープ
1点
ロンドン立体鏡会社
19世紀後半
木製
39.7×23.4×9.8～50.0

ステレオ写真とは、わずかに異なる角度から撮影した同じ被写体の2枚の写真を左右に配した写真で、ステレオスコープを通して左右の写真を見ることで、立体的な像を視覚することができる。このことから、立体写真とも呼ばれている。

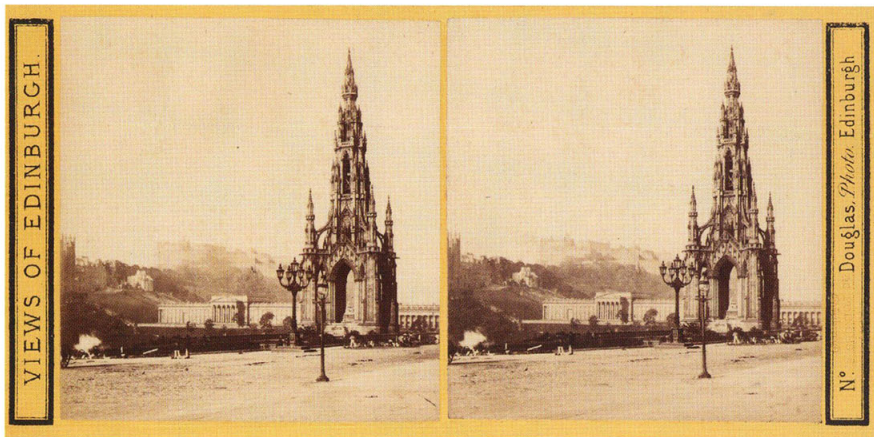
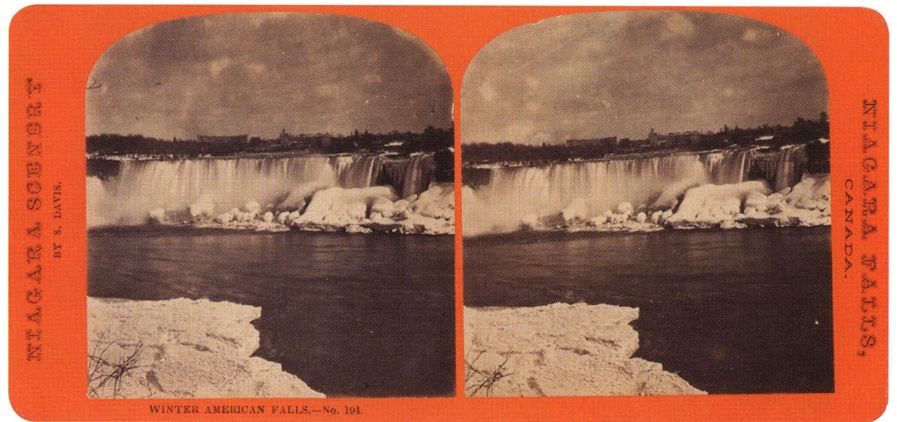
《各国ステレオ写真》(出品番号18)は、739枚のステレオ写真から成り、被写体についてはアメリカ・カナダ・キューバなどのアメリカ大陸や、イギリス・フランス・ドイツ・ベルギー・オーストリア・イタリア・スイスなどの欧州各国の名所・風景・風俗・産業が中心で、戦争などの事件を記録した写真も含まれている。その多くが当地の外国人写真師の撮影であることが写真台紙の印刷などから認められ、台紙の色合いや形状も様々である。撮影年代については、古いものでは1850年代のものを含む、19世紀後半と想定される。その伝来については、すべてが同時期に宮内省へ入ったものか不明であるものの、1870～71年に行われた普仏戦争関連の写真が多いことや、日本語の説明が一部の写真台紙に筆記されていることから、普仏戦争視察のために差遣された、大山巖などによって将来された可能性がある。

《ステレオグラフィスコープ》(出品番号19)は、拡大鏡としてのグラフィスコープとステレオスコープが組み合わされたもので、製作は1854年にロンドンにてノーテージ(George Swan Nottage, 1823～85)が設立した立体鏡会社(Stereoscopic Company)である。同社はステレオ写真の販売も行っていた。各所に透彫が施されるなど精巧な作りとなっているが、その伝来の詳細は不明である。本品の使用方法については、24ページを参照。



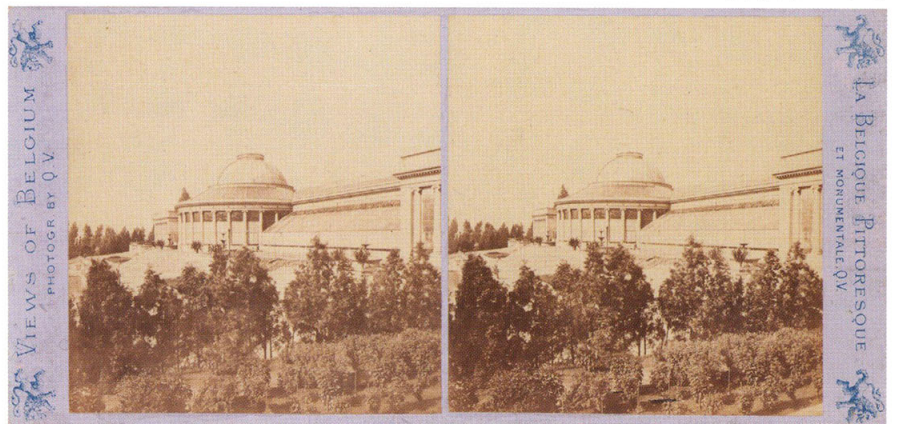
ニューヨーク、ブロードウェイ (アメリカ)

ナイアガラの滝 (アメリカ・カナダ)



エジンバラ、スコット・モニュメント (イギリス)

ブリュッセルの植物園 (ベルギー)



18
イギリスほか
各国ステレオ写真

739枚のうち

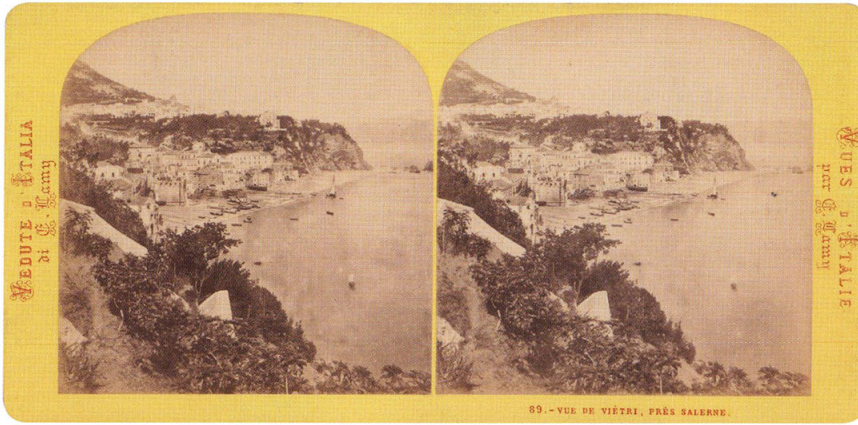
カール・ハインリッヒ・ヤコビほか

19世紀後半

鶏卵紙

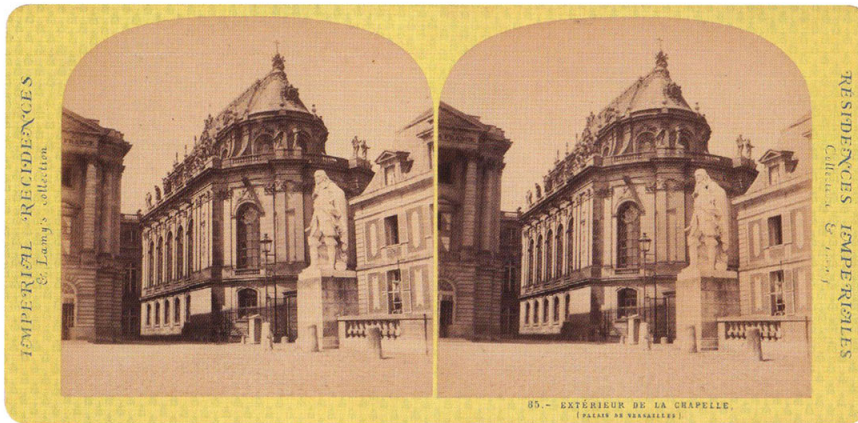
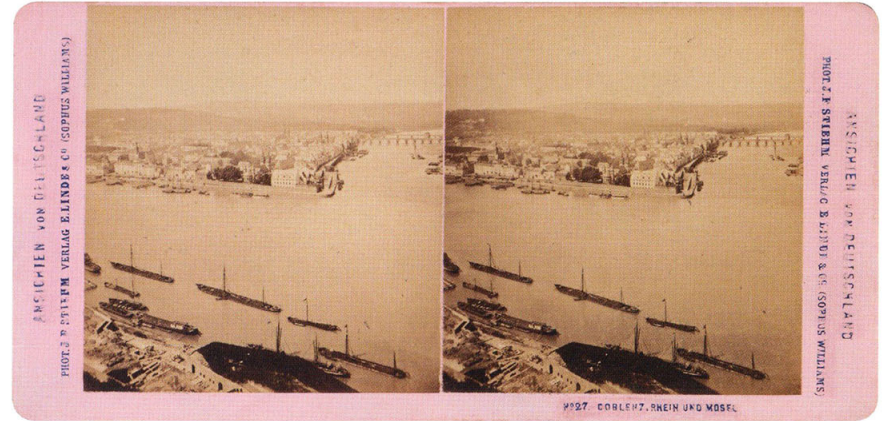
台紙：8.7×17.5ほか、

写真：7.9×7.7ほか



ヴィエトリ (イタリア)

コブレンツ、ライン川とモーゼル川 (ドイツ)

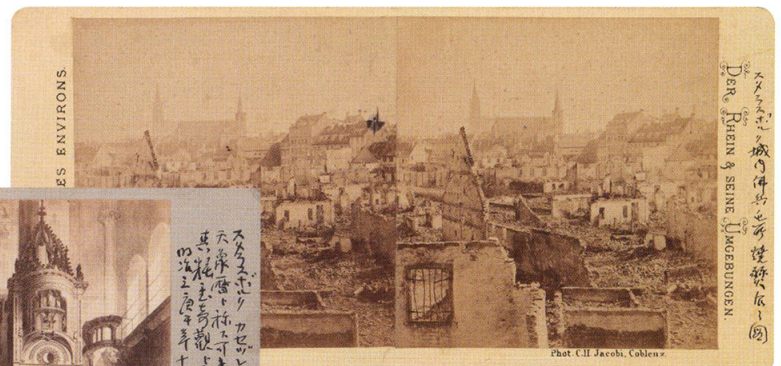
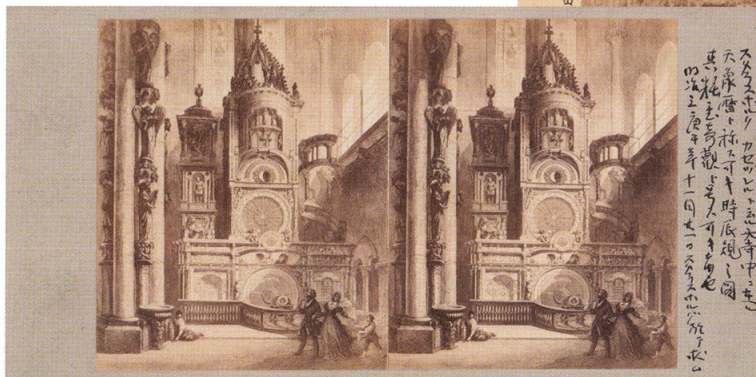


パリ、ヴェルサイユ宮殿の
ロイヤルチャペル (フランス)

ストラスブール (フランス)

(右) : 普仏戦争における仏兵屯所

(左) : 大聖堂の天文時計



台紙に記載の手書き文字翻刻

(右) 「スタラスボルク城内佛兵屯所焼燹后之図」

(左) 「スタラスボルクカゼットル大寺中ニ在ル

天象曆卜称ス可キ時辰規之図

其精至奇観ト号ス可キ者也

明治三庚午年十一月廿一日スタラスホルグ於テ求ム」

世界の覗く

レンズを通して文字などを拡大して見ることは、古くは紀元前から行われていた。その後、15世紀頃のガラス板普及に伴って、ガラスレンズを用いた拡大鏡や望遠鏡などの光学機器が次第に発達し、人々は生活の一部として、または娯楽のひとつとして、これらを楽しむようになる。

当館所蔵の《ステレオグラフィオスコープ》(出品番号19)は、イギリスのロウセル(Charles John Rowsell, 1802~82)が1864年に特許を取得した折り畳み式のグラフィオスコープが原型であり、その使用目的は、写真や絵画、コインなどを見ることは勿論、絵画や図面を製作することも含まれていた。

グラフィオスコープ用の丸い凸レンズは、通常は図3のように基板と台板との間に収納されており、それを270°回転させることで、図2のように展開される。このレンズを通すことで、台板奥にある擦りガラスの台座に配置された写真は、図1のように拡大して見える。なお、ピント調節のため、台座は前後に可動する仕組みとなっており、台板の角度も調整可能である。

ステレオスコープの原理は、写真術発明以前の1832年にイギリスのホイットストーン(Charles Wheatstone, 1802~75)により組み立てられていたが、1839年にフランスで写真が発明されたことでステレオ写真が誕生。その後、万国博覧会などで紹介されたことから世界的に注目を浴びることとなった。その存在は、日本においても幕末期から知られており、いち早くその技術を得た横山松三郎は、明治3年(1871)に日光のステレオ写真を撮影している。また、横山の制作とされる本品と同型のスコープも市立函館博物館に所蔵されている。

ステレオスコープとして使用する際には、図3のように双眼レンズを立ち上げ、台座に置かれたステレオ写真を左右のレンズから同時に覗く。このときに右眼と左眼から入った画像のズレを脳が処理し、立体像として認識する仕組みになっている。このことから、ステレオスコープによる立体視にはある程度の感覚的な慣れが必要である。

写真の発明によって、人々はまだ見ぬ世界のありのままの姿を知る機会を得た。しかし、グラフィオスコープを通して見る広がりをもった世界や、ステレオスコープを覗いて見る奥行き感のある世界は、当時の人々に更に一步踏み込んだ、世界を巡る気分を体験させたに違いない。



(図1) グラフィオスコープから見るステレオ写真



(図2) グラフィオスコープ使用時



(図3) ステレオスコープ使用時



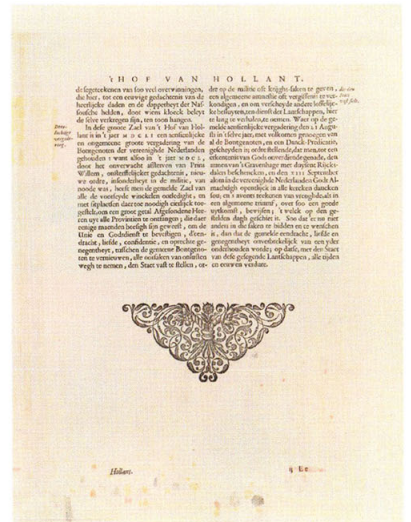
20
 イタリア
 羊飼いの家族 1点
 ソロモン・コロディ
 19世紀後半
 キャンバス、油彩
 65.1 × 124.8

19世紀後半のイタリア人画家ソロモン・コロディ (Hermann David Salomon Corrodi, 1844~1905) による油彩画。作品の伝来は詳細不明である。コロディは、フランスのフラスカーティに生まれ(スイスのチューリッヒとする説もあり)、聖ルカアカデミー (Accademia di San Luca) で絵を学んだ。風景画、歴史画を得意とし、ヴィクトリア女王をはじめ英国王室から様々な作画依頼を受けていた。本図は、カンパーニャと呼ばれるローマ周辺の平野部で羊とともに生活する家族を描いたもの。コロディは、19世紀にヨーロッパで流行したオリエンタリズムの関心をもって、エジプト、シリア、キプロス、イスタンブールなど異国の風景や風俗を好んで描いたが、本図も近代化が進む都市部ではなくカンパーニャの暮らしを題材として選ぶところには同様の視点がうかがえる。



21
オランダ
ハーグ旧宮殿図
1点
18世紀
紙、銅版画、彩色
45.2 × 59.3

昭和46年(1971)9月から10月にかけて、昭和天皇は香淳皇后とともにデンマーク、ベルギー、フランス、イギリス、オランダ、スイス、西ドイツの欧州7カ国を訪問された。その折にオランダ国にてユリアナ女王より贈られた作品。画面中央に折れ目が残っており、オランダ各地の景観を絵と文章で紹介する地誌的な冊子の見開き2ページ分を額装に仕立て直したものと思われる。17世紀から18世紀にかけて、オランダではこのような地誌や地図が流行をみせていた。ホラント伯領の紋章が中央上部に配された本図で描かれているのは、かつては法廷として、そして現在も国会議事堂として使用されている中世の建築物「騎士の館(Ridderzaal)」と、その前庭で人々が行き交う活気ある光景である。本紙裏面の右半分(冊子形態では本図の前ページにあたる箇所)には、「HOF VAN HOLLANT(ホラントの裁判所)」という見出しとともにその説明文が記されており、本図の地誌的な性格がうかがえる。



本紙裏面



27
ベルギー
ブリュッセル市庁舎図

(原画) レッデルボス

1点

18世紀
紙、銅版画、彩色
47.2×61.0

出品番号21と同様に、昭和46年(1971)の御訪欧の折、ベルギーの首都ブリュッセルを訪れた昭和天皇へ、ブリュッセル市長より献上された品。ブリュッセルの中心地であり、文豪ビクトル・ユーゴーが「世界で最も美しい広場」と称賛したグラン・プラス(Grand-Place、大広場)の景観図である。その広場の中でひととき目立つゴシック様式の建造物は、15世紀に建てられた市庁舎である。屹立するその塔の先端には、現在と同じくブリュッセルの守護聖人大天使ミカエルの像が見える。原画は1783年に画家レッデルボス(Redderbosch)によって描かれたものと記されている。



23

ギリシア

赤百合細工置物

1点

1974年頃

金、エナメル、石英

10.8 × 15.3 × 25.3

桃色に発色する石英の岩塊に、金製の枝葉が挿し込まれ、その先端には蕾から満開までさまざまな表情をみせる赤百合の花が深みのある色合いの赤色エナメルであらわされている。昭和49年(1974)に昭和天皇と香淳皇后の御結婚50年のお祝いとして、ギリシャ国大統領フェドン・ギジーキスより贈られたもので、添付された説明書によれば、紀元前17世紀の海底火山の噴火により崩壊した、エーゲ海のテラ島(サントリーニ島とも呼ばれる)のアクロティリ遺跡に残された壁画をモチーフにしている。同じエーゲ海のクレタ島が、ヨーロッパにおける最古の文明の一つと言われるミノア文明の中心地であるが、テラ島もミノア文明の圏内にありまとまった資料が出土している。この作品の元となった、春の岩場に咲き乱れる赤百合と飛翔する燕を描いたフレスコ技法による壁画は、現在アテネ国立考古博物館で展示公開されている。



24

スペイン

自在式魚置物 2点

20世紀

銀、鍍金、エメラルド

各長19.0、高5.4

魚形で胴の内部を鉸留めすることで可動性を持たせた、いわゆる自在式置物である。このような魚形の自在式置物は、スペインの伝統的な銀細工に類例を見ることができるものであるが、本品は彫金による鱗の表現も細やかで、全体に鍍金をほどこし、目にエメラルドを嵌め込んでいるのが特徴である。昭和60年(1985)2月に御名代としてスペイン国を訪問された皇太子同妃両陛下(天皇后両陛下)を通じて、同国国王ホアン・カルロス1世、王妃ソフィア両陛下より香淳皇后へ贈られた品である。



28

ポルトガル

銀製楊枝入れ 1点

19世紀

銀、彫金

径8.2、高16.2

花束を垂直に立てて四方に花と葉を広げた銀製楊枝入れ。上方の中心部には四枚の葉を彫金であらわし、楕円形の飾りの部分に開けられた多数の小孔に楊枝を刺して、テーブルウェアとして用いたものであろう。台座には複数の判読不能の刻印があるが、作風から19世紀以前のものであろうと推測する。昭和59年(1984)6月に公賓として来日したポルトガル国首相マリオ・アルベルト・ノブレ・ソアレスより香淳皇后へ贈られた品。



26
フランス
青釉少年図花瓶
セーヴル国立製陶所
1892年
磁器
径38.7、高71.7

1点

セーヴル窯は18世紀半ばに開窯した王立磁器製作所を継承する、フランスを代表する名窯である。本作は、古代ギリシャの壺を連想させる新古典主義的な器形の白磁に薄い青磁釉をほどこし、水分の多い泥状の粘土を筆で盛り付ける、パット・シュール・パット技法 (pâte-sur-pâte) で図様をあらわした花瓶である。胴上部に五つの窓枠をもうけてセーヴル窯特有の紺地に白の盛り上げで、闘鶏、荷車を引く犬、山羊の搾乳、羊の毛刈り、白鳥の餌付けからなる、裸形の少年たちと鳥や動物を組み合わせた場面を描いている。窓枠内の彫銘から、パット・シュール・パット技法の作者として知られる、タキシル・ドア (Taxile Doat, 1851~1939) の作品であることが判明する。窓枠内には同じく「1891」の彫銘と、口縁内部には「S92」の印銘があり、焼成前の彫刻部分は1891年に、その後施釉焼成して翌1892年に完成したことがわかる。本作は昭和8年(1933)11月にパリ国際大学都市総裁アンドレー・オノラより昭和天皇へ献上された。フランスの文部大臣経験者であったオノラは、同年10月にパリ日仏協会会長としてフランスと日本の文化交流のために来日した際、昭和天皇に拝謁している。



25
ハンガリー
鳥図蓋付飾壺
ヘレンド
1985年頃
磁器
径29.5、高49.1

1点

ヘレンド窯は1826年にハンガリーの首都ブタペストから南西120キロほどの小村で創業、19世紀には王侯貴族向けの高級磁器を生産して名声を高め、ハンガリーを代表する磁器窯となった。この装飾的な把手とアーティチョーク形の摘みのある蓋がつく飾壺には、前後の胴部には木に留まる三羽の野鳥とその周囲に蝶が描かれている。ロスチャイルド・バード (Rothschild Bird) と呼ばれる装飾文様のシリーズの一つで、オリジナルは1860年にヘレンド窯の支援者であったウィーンのロスチャイルド家のために作られたものである。12種類の図様があり、それらはロスチャイルド男爵夫人が邸宅の庭で真珠のネックレスを無くした際、数日後、木々に留まる鳥たちがそのネックレスで戯れているのを庭師が見つけたことに因んでいる。昭和60年(1985)9月に公賓として来日したハンガリー国閣僚評議会議長ジョルジュ・ラーザールより昭和天皇へ献上された。



22
キプロス
把手付線文土器壺

1点

キプロス島出土
紀元前600～475年
土器
径39.7、高48.0

キプロスは、トルコの南の東地中海にあるキプロス島一島からなる島国で、この島は紀元前から東地中海を往来する諸文明、諸民族の中継地として繁栄した。ギリシア人と西アジア文明の出会いの土地でもあることから、古代ギリシア文明の造形文化、技術に大きな影響を与えた。本品は鉄器時代のキプロス島で数世紀以上にわたり製作された二色彩文土器で、紀元前1000年頃以降に同島に入植したフェニキア人が製作したものである。このような器形の壺は、地中海世界ではアンフォラ (amphora) と呼ばれ、二つの把手と胴部から長く伸びる首をもつ。焦茶色と赤茶色の二色で彩色されており、帯状の圏線のほか三重の同心円文様が多く描かれているのが特徴である。用途としては、墓地に埋葬された蔵骨器であろうと推測される。このような彩文土器は、フェニキア人の入植活動に伴い、西アジアや北アフリカ、スペインなどでも類似した作例が出土している。昭和45年(1970)11月に来日したキプロス国マカリオス大統領より昭和天皇へ贈られた品。



29
 エジプト
 ジェセル王の壺 1点
 紀元前27世紀
 アラバスター
 径35.2、高42.2

口縁の形状や器形から古代エジプト古王国時代第三王朝期(紀元前27世紀)に製作されたと推定されるアラバスター製の壺。アラバスターとは大理石に似た粒子の細かい白い半透明の石で、大理石よりも柔らかく加工が容易であるため、古代のエジプトやギリシアで彫像や工芸品に用いられた。この石壺は昭和35年(1960)4月に来日したアラブ連合共和国国務大臣を通じて、同国大統領ガマル・アブデル・ナセルより贈進品として昭和天皇へ贈られた。添付された解説書によれば、1935年にカイロの南30キロ付近にあるサッカラの「階段ピラミッド」として有名なジェセル王のピラミッドの下部回廊の一つで発見されたものである。アラブ連合共和国は、1958年にエジプト共和国がシリア共和国と連合して作られた国家で、1961年にはこの連合は解消され両国は再び別々の国家体制に戻ることとなった。



31
コートジボワール
諸物図壁掛 1点

1974年頃
麻地、アププリケ
180.0×250.0

コートジボワールはギニア湾に面した西アフリカの国で、かつて象牙の輸出が盛んであったため、象牙海岸を意味するフランス語が国名となった。多数の民族が居住し、象牙細工のほか、木彫の仮面、金属工芸など様々な工芸文化が発達している。染織もコロゴ布、ケンテクロス、緋織の縞模様布など各民族の特徴を生かして多彩である。この壁掛は、昭和49年(1974)の昭和天皇と香淳皇后の御結婚50年のお祝いの品として、初代コートジボワール国駐日大使ビエール・ネルソン・コフィ夫妻より献上された。アププリケによって図様をあらわす手法は同じギニア湾岸にあるベナンのフォン族の染織品に酷似しており、アププリケの主要なモチーフは17世紀初頭から19世紀末までベナン南部に存在したダホメー王国の歴代国王の紋章の図様である。国王の紋章には含まれない腕から頭だけを出す人物は宗教的な図像であると思われるが、船のマストに掲げられた三色旗は1959年に制定されたベナン国の国旗と同じ色配列である。この壁掛が献上の品に選ばれた理由は明らかではないが、旧フランス領であった西アフリカ諸国に属する両国に、歴史的背景と宗教的文化的共通性があったことも関係しているのではないかとみられる。



30
 カメルーン
 猿形ビーズ製腰掛 1点
 1973年頃
 ビーズ、木、裂
 34.5 × 31.5 × 40.5

アフリカ文化においてビーズ装飾は紀元前から長い歴史をかけて独自に発達してきた。カメルーンでは、南西部のカメルーン高地に17世紀頃から王国を形成したバミレケやバムンの人々のビーズ装飾が知られている。それらの王国では、王が独占する交易を通じて入手されるビーズによって王に関わる調度や器物の多くが覆われ、王自身の権威を象徴していた。バミレケの人々が作るビーズ製品には、色とりどりのビーズで覆われた仮面や、動物の形状をした調度があり、布製あるいは木に布を貼ったものにビーズで加飾している。本品も猿の姿を模した木製の椅子にビーズ装飾をほどこしたもので、アフリカ彫刻としてイメージされる木彫やブロンズの重厚な存在感とはまた異なる、鮮烈な色彩感覚や軽快な造形感覚をみることができる。昭和48年(1973)4月に来日したカメルーン国大統領エル・アジ・アマドウ・アビジョ夫妻より昭和天皇へ贈られた。



①



②

32
中央アフリカ
仮面 2点

①1952年 ②1966年以前
木彫

①35.0×15.3×10.5

②32.0×16.0×12.0

これら2点の仮面は、昭和43年(1968)9月に来日した中央アフリカ国の親善使節団を通じて、同国大統領ジャン・ベテル・ボカサより昭和天皇へ贈進された品である。①の作品は、同国南部のノラ地域のカカ族により1952年に制作されたもので、ゴムの木を用いて彫刻し、黒色に着色している。顔の上下に角と足のような突起をつけ、耳は溝を刻んだ板状に張り出した形で造形されている。その形からは、西アフリカのコートジボワール北部に住むセヌフォ族の仮面の様式に繋がること指摘されている。②は女性の仮面で、中央アフリカ国南東部のウァンゴ市のヤコマ族に由来する品であるという。木彫で、やはり黒色に着色されている。額にはボディアートの一つ、瘢痕と思われる装飾がある。仮面の様式は、ガボンのブヌ族やシラ族の仮面に共通するという。アフリカでは、他の民族の仮面様式を導入することは頻繁に行われており、観光客向けの仮面についてはアフリカ大陸全域にわたる流通のネットワークがあるという。そのため、中央アフリカの仮面においても、遠く離れた他の地域の仮面との関連が指摘されている。



33
 ナイジェリア
 ベニンのウゴのアボギデイ像 1点
 1974年頃
 真鍮、鋳造
 20.8×18.2×35.3

ベニン王国は12世紀から19世紀末まで現在のナイジェリアの南部海岸地域に存在した王国で、テラコッタや青銅、真鍮によるすぐれた彫像表現を特徴としている。西アフリカでよく用いられる鋳造技術は、失蠟法(cire-perdue)というミツバチの蜜蠟や樹脂で原型を作り、その周囲を粘土で固めて中の蜜蠟を熱して溶かして流したものを鋳型とする、日本の蠟型鋳造と同様の製作法である。ただし、西アフリカでは原料となる銅(実際は鉛、錫、真鍮の合金)を産出しないため、8世紀頃から始まった交易を通じて、はるばるサハラ砂漠を超えて北アフリカから銅を入手していたと推測されている。

本像は格子柄の衣服に冠を戴き、髭を蓄えた威厳のある表情をとらえた男性の胸像である。真鍮を素材としており、像内部の紙貼から、18世紀のベニンの勇猛な戦士として伝えられるウゴのアボギデイ(Agboghidi of Ugo)の像であることがわかる。昭和49年(1974)に昭和天皇と香淳皇后の御結婚50年のお祝いとして、ナイジェリア国連邦軍事政府主席ヤクブ・コウォンより贈られた。

34

アメリカ

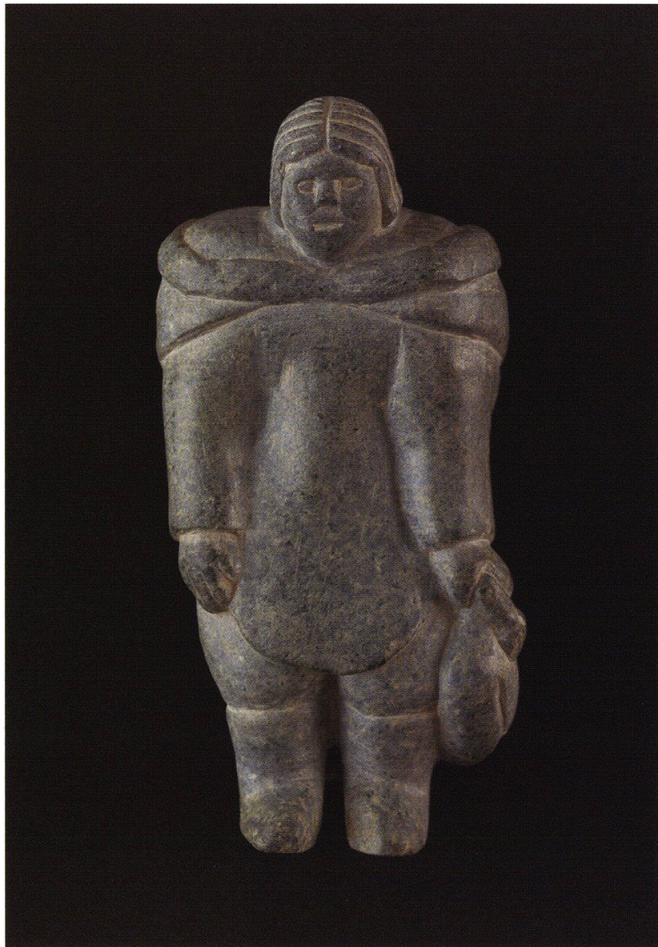
ティキ神像 1点

1975年頃

木彫

5.0×5.6×22.0

ニュージーランドからハワイまでを含むポリネシアの各諸島では、創世神話に登場する創造神であり、男性の人類始祖であるティキと呼ばれる神を崇拝し、各地でそれぞれ特徴あるティキの神像が作られてきた。本品は、ハワイのティキ神像で、小品ではあるが、のみ跡の残る力強い木彫の作品で、強調された目と口、膝を曲げたポーズに特徴がある。昭和50年(1975)10月、昭和天皇・香淳皇后の米国御訪問の折、ハワイ州においてコナ郡の郡長より献上された品である。



35

カナダ

イヌイット石像 1点

1970年頃

石

7.0×10.3×21.5

イヌイットはカナダ北部に住む先住民族で、その彫刻は芸術性の高さだけでなくイヌイットの文化や生活を伝えるものとして評価されている。本像は左手に水鳥を捕まえた立ち姿の人物を全体に丸みのある柔らかな表現で彫りあらわしている。昭和45年(1970)3月14日に行われた日本万国博覧会の開会式に臨まれた昭和天皇はお言葉を賜った後、前回万博開催国であるカナダ館に向かわれ、同国の風土や歴史、文化を紹介する展示をご覧になった。本品はその翌月にカナダ国特命全権大使ハーバート・オーウェン・モランより昭和天皇へ献上されたものである。



36
 パナマ
 ジャガー形石臼 1点
 7～9世紀
 石
 29.4×56.0×21.1

楕円形の平面部の周囲に、頭部と四本の脚部、尾をもつ、中南米の密林に生息する猛獣ジャガーの形をした火山岩製の石臼。中米では伝統的にメタテ (metate) と呼ばれ、古代にはこのような鳥獣の形状をしたメタテが宗教的儀式に用いられていたと考えられている。本品は様式の特徴から、メソアメリカ古典期後期 (西暦600～900年頃) の作例とみられる。昭和55年 (1980) 3月に国賓として来日したパナマ国大統領アリストイデス・ロヨ・サンチェス夫妻より昭和天皇へ贈られた品。

37

ホンジュラス

街並風景 1点

ホセ・アントニオ・ヴェラスケス

1974年

キャンパス、油彩

29.8×37.4

昭和49年(1974)4月に来日したホンジュラス国家主席夫人より香淳皇后へ贈られた作品。作者のホセ・アントニオ・ヴェラスケス(Jose Antonio Velasquez, 1906～83)は、ホンジュラスの南西部、エルサルバドルに隣接するカリダに生まれ、一時期首都のテグシガルバで生活した後、サン・アントニオ・デ・オリエンテという山村に移り住んだ。以降、その村の美しい光景に魅せられ絵を描き始め、次第にプリミティブ・アートの画家として海外にまでその名が知られるようになった。ホンジュラスは伝統的にカトリックが信仰されており、本図にも黒服に黒ベールのカトリックの正装でミサに向かう女性の姿があり、遠景には白い教会が描かれている。作者はサン・アントニオ・デ・オリエンテの中でも、緑の山々に囲まれたタイル屋根の住宅の中に美しい白亜の教会がのぞくこの景色をことさら気に入ったようで、数十年にわたり同様の風景を繰り返し描いている。



38
メキシコ
アステカの暦石文鎮 1点
1923年頃
銅、鑄造
径16.0、厚1.2

この金属製の文鎮は、1790年にメキシコの首都メキシコシティの中央広場で発掘され、現在はメキシコ国立人類学博物館に収蔵されている。太陽の石を縮小したものである。太陽の石は1479年にアステカ王朝第6代皇帝アシャヤトルが作らせて奉納したもので、暦であると同時にアステカ人の世界観を表わしている。メキシコシティにある高級宝飾店エスメラルダの皮製箱に収められ、箱に取り付けられたプレートに、大正13年(1924)の皇太子(昭和天皇)御結婚のお祝いとして、メキシコ国民を代表して同国大統領から贈られたことが記されている。



39
アルゼンチン
色絵花文鉢・色絵花文水差 2点
アルファレリーア・ポルテーニャ
1986年頃
陶器
鉢：径34.3、高11.8、水差：径17.8、高31.1

暖かみのある白い素地に赤紫の縁取りと花柄が手描きされた洗面用の陶製水差と陶製鉢。アルゼンチンの首都ブエノスアイレスで作られた陶器であるが、作者によれば、その色彩感覚やデザインはフランス北部の都市パ・ド・カレーの建築に由来するという。水差の正面上部にはスペイン語で「良子皇后陛下」と記されている。昭和61年(1986)7月に国賓として来日したアルゼンチン国大統領ラウル・リカルド・アルフォンシンより香淳皇后へ贈られた品。



40
ベネズエラ
菊折枝置物
1988年頃
金、鑄造
11.0×23.6×12.8

1点

キク科植物の花折枝を写實的に再現した金工作品である。特徴的な細長い棒状の花弁は一枚ずつ鑄造されており、薄作りの葉も鑄造後に鍛造成形して、それらを幹となる太い枝に鑲付けしている。金の純度を表す「18K」と、製造者を示す「J. ROCA」の刻印が葉の裏側にみられる。収納箱には、ベネズエラ的首都カラカスにある高級宝飾店ホィェリーア・ロカの商標が刺繍されている。昭和63年(1988)4月に国賓として来日した同国大統領ハイメ・ルシンチより昭和天皇へ贈られたもので、枝の根元の裏側には「1988 VENEZUELA A S.M.HIROHITO」の鑄造銘がある。



41
ペルー
彩画幾何文様橋形双注口壺
1点
8～11世紀
土器
12.4×17.0×15.2

42
ペルー
彩画人物文様把手付壺 1点
8～11世紀
土器
径12.5、高16.3



南米の古代文明のなかではインカ文明が有名であるが、これらの土器はそれよりも前の時代のワリ文化(紀元700～1000年頃)に作られたものである。ワリ文化は南米最初の帝国とも言われ、ほぼ現在のペルーの国土に当たる沿岸部から高地部分一帯に広がっていたと考えられている。しかし、精巧な工芸品を残したことで略奪や破壊の対象となり、考古学的な情報が少なく、征服者による記録が残る後代のインカ文明の影に隠れていた。

ワリ文化の土器は、先行するナスカ文化(紀元前200～紀元650年頃)やモチェ文化(紀元200～800年頃)の土器と同様、器としての用途だけでなく造形的にも興味深いものが多く、動物や人物をかたどったものや、彩色により抽象化された文様を描いたものなどがある。出品番号41《彩画幾何文様橋形双注口壺》は二つの注ぎ口に把手を渡した器形に、褐色に彩色した部分と緻密な文様を描く部分とに分割している。同42《人物文様把手付壺》は首部を顔に見立て、鼻と口を立体的に盛り上げた壺で、目や手を描くことで器が擬人化されたような面白さがある。昭和40年(1965)4月に社団法人海外電力調査会の招待により来日したペルー国勸業省灌漑庁長官ルイス・ソルディより昭和天皇へ献上された品。



44

ニュージーランド

ティキ神像・宝箱

1組

ティキ：18世紀、箱：1956年頃

ティキ：軟玉、箱：木彫

ティキ：12.0×7.5、

箱：25.2×11.5×5.1

ポリネシアの創世神話に登場する創造神であり、男性の人類始祖であるティキを表した像で、ニュージーランドのマオリの人々が首から下げて身につける伝統的なお守りである。このようなペンダントはハイ・ティキと呼ばれ、その所有者を護り、幸運をもたらすとして大切にされた。本作は、ニュージーランド南島で産出する美しい緑色の石、ポウナム（軟玉）を彫刻して作られており、その制作年代は18世紀頃まで遡るかと考えられる。また、このペンダントを納める箱は、マオリの人々がその愛蔵品を納める、ワカ・ファイアと呼ばれる宝箱である。表側には複雑な渦巻文様が彫刻され、丸い貝片が象嵌される。伝来によれば、この箱の装飾は「太平洋を越えて握り合う手」を主題として、コルルという人面と、古代の鳥人マナイアの姿を取り合わせた文様であり、ニュージーランドと日本両国の友好と親善を願う意味を象徴するものという。いずれも昭和31年（1956）6月、国賓として来日したニュージーランド国首相シドニー・ジョージ・ホーランドより昭和天皇へ贈られた品である。

43

オーストラリア

山と岩 1点

ウィリアム・サーモン

1967年頃
キャンバス、油彩
104.5×83.6

昭和42年(1967)3月、オーストラリア国の外務大臣ポール・ハズラック夫妻より献上された油彩画。作者のウィリアム・サーモン(William Arthur Salmon、1928～)は、雄大な大地とたくましく繁茂する植物の織りなす、オーストラリア特有の美しい自然風景を描き続けた画家である。オーストラリア国のヴィクトリア州ジーロングで生まれたサーモンは、スウィンバーン工科大学を卒業後、メルボルンにあるジョージ・ベル美術学校で絵を学び、さらにロンドンに渡りスレード美術学校に入学した。その後は南オーストラリア美術工芸学校、東シドニー工科大学で教鞭をとっている。風景の中に建築物を極力描かず、自然の声に耳を傾けその力強い生命力を画面に表現するその姿勢は、自然の中に靈性を見出す先住民の自然観に強い影響を受けたという。

出品目録

会期：平成30年1月13日(土)～4月8日(日)

前期：1月13日(土)～2月25日(日)／後期：3月3日(土)～4月8日(日)

出品番号	国名	作品名	制作者(出土地)	制作年	技法材質	員数	寸法	伝来	展示期間
アジア									
1	インド	草花文飾壺		1985年頃	象牙、象嵌	1点	径17.2、高44.0	昭和60年(1985)インド国首相より	前期
2	韓国	螺鈿鳳凰文花瓶	金奉龍	1970年頃	金属胎、漆塗、螺鈿	1点	径26.0、高22.2	昭和45年(1970)大韓民国特命全権大使夫妻より	後期
3	カンボジア	銀製蓋付飾壺		1974年頃	銀、鍛造、ニエロ	1点	径15.8、高23.2	昭和49年(1974)カンボジア国大統領より	前期
4	タイ	蒟醬花文水入鉢		1932年頃	漆塗、蒟醬	1対	各径62.0、高58.5	昭和7年(1932)シャム国(タイ国)カンベンベツト王子より	後期
5	タイ	ベンジャロン焼蓋付壺		1987年頃	磁器	1点	径22.7、高34.0	昭和62年(1987)タイ国皇太子ワチラロンコン殿下より	前期
6	中国	粉彩八宝文皿		19世紀	磁器	1点	径44.0、高8.6	昭和54年(1979)中華人民共和国全国人民代表大会常務副委員長より	前期
7	中国	粉彩博古図花瓶		19世紀	磁器	1対	各径23.5、高57.5	明治24年(1891)清国特命全権公使より	後期
8	ネパール	獅子置物		1960年頃	真鍮、トルコ石、珊瑚	1対	各20.4×25.8×31.7	昭和35年(1960)ネパール国王マヘンドラ、同妃より	前期
9	パキスタン	銀製茶器		1957年頃	銀、彫金	1式	盆：径25.3、高1.5、 水差：径13.2、高21.7、 カップ：各径4.2、高5.3	昭和32年(1957)パキスタン国首相夫妻より	後期
10	ブータン	トオ(儀式用仮面)		1986年頃	紙粘土、彩色ほか	1点	27.0×27.0×17.0	昭和61年(1986)ブータン国王ワンチュクより	後期
11	ラオス	銀製打出鉢		1965年頃	銀、鍛造、ニエロ	1点	径26.1、高22.4	昭和40年(1965)ラオス国皇太子ウォン・サヴァン、同妃より	前期
中東									
12	イラン	赤地黒彩壺	イラン、ケルマーン州出土	紀元前2500年頃	土器	1点	径28.8、高32.5	昭和49年(1974)イラン国皇族シャハラーム、同妃より	全期間
13	イラン	青釉黒彩文壺	イラン、ゴルガーン地方出土	12～13世紀	陶器	1点	径14.3、高22.6	昭和49年(1974)イラン国皇帝モハマッド・レザー・シャー・パハラヴィーより	全期間
14	シリア	木象嵌宝石箱		1985年頃	木象嵌、象牙ほか	1点	20.0×29.3×7.6	昭和60年(1985)シリア国大統領夫妻より	前期
15	シリア	銀製花瓶・煙草箱		1985年頃	銀線細工	3点	花瓶：径8.4、高23.3、 煙草箱：11.0×11.0×6.0	昭和60年(1985)シリア国大統領夫妻より	前期
16	トルコ	リュステム・パシャ・ジャーミイ	ヒュセイン・ヒュスマー	1880～90年代	キャンバス、油彩	1点	73.6×107.5	明治24年(1891)オスマン帝国皇帝アブドゥル・ハミト2世より	全期間
17	ヨルダン	把手付壺	ヨルダン、ペトラ出土	紀元前1～紀元後1世紀	土器	2点	(大)径8.7、高17.6、 (小)径5.5、高13.1	昭和57年(1982)ヨルダン国王フセイン1世より	全期間
ヨーロッパ									
18	イギリスほか	各国ステレオ写真	カール・ハインリッヒ・ヤコビほか	19世紀後半	鶏卵紙	739枚のうち	台紙：8.7×17.5ほか、 写真：7.9×7.7ほか		全期間
19	イギリス	ステレオグラフィオスコープ	ロンドン立体鏡会社	19世紀後半	木製	1点	39.7×23.4×9.8～50.0		全期間
20	イタリア	羊飼いの家族	ソロモン・コロディ	19世紀後半	キャンバス、油彩	1点	65.1×124.8		全期間
21	オランダ	ハーグ旧宮殿図		18世紀	紙、銅版画、彩色	1点	45.2×59.3	昭和46年(1971)オランダ国女王ユリアナより	前期
22	キプロス	把手付線文土器壺	キプロス島出土	紀元前600～475年	土器	1点	径39.7、高48.0	昭和45年(1970)キプロス国大統領より	全期間

23	ギリシア	赤百合細工置物		1974年頃	金、エナメル、石英	1点	10.8×15.3×25.3	昭和49年(1974)ギリシア国大統領より	後期
24	スペイン	自在式魚置物		20世紀	銀、鍍金、エメラルド	2点	各長19.0、高5.4	昭和60年(1985)スペイン国王ホアン・カルロス1世、王妃両陛下より	前期
25	ハンガリー	鳥図蓋付飾壺	ヘレンド	1985年頃	磁器	1点	径29.5、高49.1	昭和60年(1985)ハンガリー国閣僚評議会議長より	後期
26	フランス	青釉少年図花瓶	セーヴル国立製陶所	1892年	磁器	1点	径38.7、高71.7	昭和8年(1933)フランス国パリ国際大学都市総裁より	前期
27	ベルギー	ブリュッセル市庁舎図	(原画)レッデルボス	18世紀	紙、銅版画、彩色	1点	47.2×61.0	昭和46年(1971)ベルギー国ブリュッセル市長より	後期
28	ポルトガル	銀製楊枝入れ		19世紀	銀、彫金	1点	径8.2、高16.2	昭和59年(1984)ポルトガル国首相より	前期

アフリカ

29	エジプト	ジェセル王の壺		紀元前27世紀	アラバスター	1点	径35.2、高42.2	昭和35年(1960)アラブ連合共和国大統領より	全期間
30	カメルーン	猿形ビーズ製腰掛		1973年頃	ビーズ、木、裂	1点	34.5×31.5×40.5	昭和48年(1973)カメルーン国大統領夫妻より	後期
31	コートジボワール	諸物図壁掛		1974年頃	麻地、アププリケ	1点	180.0×250.0	昭和49年(1974)コートジボワール国駐日大使夫妻より	全期間
32	中央アフリカ	仮面		①1952年 ②1966年以前	木彫	2点	①35.0×15.3×10.5、 ②32.0×16.0×12.0	昭和43年(1968)中央アフリカ国大統領より	前期
33	ナイジェリア	ベニンのウゴのアボギデイ像		1974年頃	真鍮、鑄造	1点	20.8×18.2×35.3	昭和49年(1974)ナイジェリア国連邦軍事政府主席より	全期間

北・中央アメリカ

34	アメリカ	ティキ神像		1975年頃	木彫	1点	5.0×5.6×22.0	昭和50年(1975)アメリカ国ハワイ州コナ郡長より	後期
35	カナダ	イヌイット石像		1970年頃	石	1点	7.0×10.3×21.5	昭和45年(1970)カナダ国特命全権大使より	前期
36	パナマ	ジャガー形石臼		7～9世紀	石	1点	29.4×56.0×21.1	昭和55年(1980)パナマ国大統領夫妻より	後期
37	ホンジュラス	街並風景	ホセ・アントニオ・ヴェラスケス	1974年	キャンバス、油彩	1点	29.8×37.4	昭和49年(1974)ホンジュラス国首相夫人より	全期間
38	メキシコ	アステカの暦石文鎮		1923年頃	銅、鑄造	1点	径16.0、厚1.2	大正12年(1923)メキシコ国大統領より	後期

南アメリカ

39	アルゼンチン	色絵花文鉢・色絵花文水差	アルファレリーア・ボルテーニャ	1986年頃	陶器	2点	鉢：径34.3、高11.8、 水差：径17.8、高31.1	昭和61年(1986)アルゼンチン国大統領より	前期
40	ベネズエラ	菊折枝置物		1988年頃	金、鑄造	1点	11.0×23.6×12.8	昭和63年(1988)ベネズエラ国大統領より	後期
41	ペルー	彩画幾何文様橋形双注口壺		8～11世紀	土器	1点	12.4×17.0×15.2	昭和40年(1965)ペルー国勲業省灌漑庁長官夫妻より	後期
42	ペルー	彩画人物文様把手付壺		8～11世紀	土器	1点	径12.5、高16.3	昭和40年(1965)ペルー国勲業省灌漑庁長官夫妻より	後期

オセアニア

43	オーストラリア	山と岩	ウィリアム・サーモン	1967年頃	キャンバス、油彩	1点	104.5×83.6	昭和42年(1967)オーストラリア国外務大臣夫妻より	全期間
44	ニュージーランド	ティキ神像・宝箱		ティキ：18世紀、 箱：1956年頃	ティキ：軟玉、 箱：木彫	1組	ティキ：12.0×7.5、 箱：25.2×11.5×5.1	昭和31年(1956)ニュージーランド国首相より	後期

List of Exhibits

Asia

- 1
India
Decorated jar with plant and flower designs
c.1985
ivory, inlay
d.17.2, h.44.0
from the Prime Minister of India in 1985
- 2
South Korea
Vase with phoenix design in *raden*
Kim Pong-nyong
c.1970
metal base, lacquer coating, *raden* (mother of pearl inlay)
d.26.0, h.22.2
from the Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of South Korea and his wife, in 1970
- 3
Cambodia
Silver decorated lidded jar
c.1974
silver, hammering, niello
d.15.8, h.23.2
from the President of Cambodia in 1974
- 4
Thailand
Pair of water bowls with flower designs in *kinma*
c.1932
lacquer coating, *kinma* (lacquer with engraved and color-filled patterns)
each d.62.0, h.58.5
from Prince of Kamphaengphet, Siam (present Thailand), in 1932
- 5
Thailand
Lidded jar, Benjarong porcelain
c.1987
porcelain
d.22.7, h.34.0
from the Crown Prince of Thailand, HRH Prince Vajiralongkorn in 1987

- 6
China
Plate with eight treasure emblem design, *Fencai* (Chinese famille-rose porcelain) ware
19th century
porcelain
d.44.0, h.8.6
from the Vice Chairman of the Standing Committee of the National People's Congress, People's Republic of China in 1979

- 7
China
Pair of vases with design of ancient Chinese vessels, *Fencai* ware
19th century
porcelain
one pair
each d.23.5, h.57.5
from the Envoy Extraordinary of Qing in 1891

- 8
Nepal
Pair of lions
c.1960
brass, turquoise, corral
one pair
each 20.4×25.8×31.7
from King Mahendra and the Queen, of Nepal in 1960

- 9
Pakistan
Set of silver tea vessels
c.1957
silver, metal carving
one set
tray: d.25.3, h.1.5, water jug: d.13.2, h.21.7, cups: each d.4.2, h.5.3
from the Prime Minister of Pakistan and his wife, in 1957

- 10
Bhutan
Ritual mask
c.1986
paper mache, colored paint, etc.
27.0×27.0×17.0
from King Wangchuck of Bhutan in 1986

- 11
Laos
Silver hammered bowl
c.1965
silver, hammering, niello
d.26.1, h.22.4
from the Crown Prince Vong Savang and Princess, of Laos in 1965

Middle East

- 12
Iran
Jar with black patterns on red ground
excavated from Kerman, Iran
c.2500 B.C.
earthenware
d.28.8, h.32.5
from Prince Shahram and Princess, of Iran in 1974

- 13
Iran
Jar with black color designs, blue enamel
excavated from Gorgan, Iran
12-13th century
pottery
d.14.3, h.22.6
from Mohammad Rezā Shāh Pahlavi, Shah of Iran, in 1974

- 14
Syria
Jewelry box with wooden inlay
c.1985
wood inlay, ivory, etc.
20.0×29.3×7.6
from the President of Syria and his wife, in 1985

- 15
Syria
Silver vases and tobacco box
c.1985
silver filigree
three pieces
vase: d.8.4, h.23.3, tobacco box : 11.0×11.0×6.0
from the President of Syria and his wife, in 1985

16
Turkey
Rüstem Pasha Mosque
Hüseyin Hüsnü
1880-1890's
oil on canvas
73.6×107.5
from Abdul Hamid II, Sultan of Ottoman
Turkish in 1891

17
Jordan
Jars with handles
excavated from Petra, Jordan
1st century B.C. - 1st century A.D.
earthenware
two pieces
large - d.8.7, h.17.6, small - d.5.5, h.13.1
from King Husayn I of Jordan in 1982

Europe

18
Britain, etc.
Stereo photographs of various
countries
Carl Heinrich Jacobi, etc.
latter 19th century
albumenized paper
among 739 photographs
mount: 8.7×17.5 etc., photograph :7.9×7.7
etc.

19
Britain
Stereo graphoscope
London Stereoscopic Company
latter 19th century
wood
39.7×23.4×9.8 ~ 50.0

20
Italy
Shepherd's Family
Hermann David Salomon Corrodi
latter 19th century
oil on canvas
65.1×124.8

21
Holland
Ancient Palace in The Hague
18th century
paper, copperplate print, colors
45.2×59.3
from Queen Juliana of the Netherlands in
1971

22
Cyprus
Earthenware jar with handles and
line and circle patterns
Excavated from the Island of Cyprus
600-475 B.C.
earthenware
d.39.7, h.48.0
from the President of Cyprus in 1970

23
Greece
Red lily ornament
c.1974
gold, enamel, quartz
10.8×15.3×25.3
from the President of Greece in 1974

24
Spain
Articulated fishes
20th century
silver, plating, emerald
two pieces
each : 1.19.0, h.5.4
from TIH King Juan Carlos I and the Queen,
of Spain in 1985

25
Hungary
Decorated lidded jar with birds
design
HEREND
c.1985
porcelain
d.29.5, h.49.1
from the Chairman of Council of Ministers of
the Hungary in 1985

26
France
Vase with design of youths, blue glaze
Manufacture Nationale de Sèvres

1892
porcelain
d.38.7, h.71.7
from the President of the International
University City of Paris in 1933

27
Belgium
Brussel City Hall
original picture : Redderbosch
18th century
paper, copperplate print, colors
47.2×61.0
from the Mayor of Brussels, Belgium in 1971

28
Portugal
Silver toothpick holder
19th century
silver, metal carving
d.8.2, h.16.2
from the Prime Minister of Portugal in 1984

Africa

29
Egypt
Jar of Djoser
27th century B.C.
alabaster
d.35.2, h.42.2
from the President of the United Arab
Republic in 1960

30
Cameroon
Monkey shaped stool made with
beads
c.1973
beads, wood, cloth
34.5×31.5×40.5
from the President of Cameroon and his wife,
in 1973

31
Côte d'Ivoire
Tapestry with various illustrations
c.1974
hemp, appliqué
180.0×250.0
from the Côte d'Ivoire Ambassador to Japan

and his wife, in 1974

32
Central Africa
Masks

1)1952 2)before 1966
wood carving
two pieces
1) 35.0×15.3×10.5, 2) 32.0×16.0×12.0
from the President of Central Africa in 1968

33
Nigeria
Beninese warrior, Agbogghidi of Ugo
c.1974
brass, casting
20.8×18.2×35.3
from the Head the Federal Military
Government of Nigeria in 1974

North and Central America

34
United States
Tiki deity
c.1975
wood carving
5.0×5.6×22.0
from the Head of Kona District, Hawaii,
United States of America, in 1975

35
Canada
Inuit
c.1970
stone
7.0×10.3×21.5
from the Canadian Ambassador Extraordinary
and Plenipotentiary to Japan in 1970

36
Panama
Jaguar shaped stone mill
7-9th century
stone
29.4×56.0×21.1
from the President of Panama and his wife, in
1980

37
Honduras
Townscape Scene
Jose Antonio Velasquez
1974
oil on canvas
29.8×37.4
from the wife of the Prime Minister of
Honduras in 1974

38
Mexico
Aztec calendar stone paper weight
c.1923
bronze, casting
d.16.0, h.1.2
from the President of Mexico in 1923

South America

39
Argentina
Bowl and water jug with polychrome
flower designs
Alfareria Porteña
c.1986
pottery
two pieces
bowl: d.34.3, h.11.8, water jug: d.17.8, h.31.1
from the President of Argentina in 1986

40
Venezuela
Chrysanthemum ornament
c.1988
gold, casting
11.0×23.6×12.8
from the President of Venezuela in 1988

41
Peru
Jar with bridge shaped handle
and double spouts, and colored
geometrical patterns
8-11th century
earthenware
12.4×17.0×15.2
from the Director General of Agency of
Irrigation, Ministry of Encouragement of
Industry of Peru, and his wife, in 1965

42
Peru
Jar with handle and colored human
figure design
8-11th century
earthenware
d.12.5, h.16.3
from the Director General of Agency of
Irrigation, Ministry of Encouragement of
Industry of Peru, and his wife, in 1965

Oceania

43
Australia
Mountain and Rocks
Willam Arthur Salmon
c. 1967
oil on canvas
104.5×83.6
from the Foreign Minister of Australia and his
wife, in 1967

44
New Zealand
Tiki deity in a treasure box
Tiki: 18th century, box: c.1956
Tiki: nephrite, box: wood carving
one set
Tiki :12.0×7.5, box : 25.2×11.5×5.1
from the Prime Minister of New Zealand in
1956

謝辞

本展覧会の開催準備に当たり、次の方々から格別なご協力をいただきました。ここにお名前を記して厚く御礼申し上げます。
(敬称略・順不同)

コートジボワール大使館
ホンジュラス大使館
古代オリエント博物館

金玉煥 OkWhan Kim
Tulio Velásquez Maradiaga

伊藤伸幸
岡塚章子
下釜和也
鄭銀珍
白石愛
白石烈
ジラルデッリ青木美由紀
田澤恵子
津村真輝子
津本英利
鶴見英成
山田正樹
山邊寛史
依田徹

NOTICE:

Efforts have been made to contact the copyright holders of the works included in this catalog, to obtain their consent. However, we were not able to contact some of them, and kindly request for understanding of this matter.

世界を巡る——古今東西の品々を集めて

三の丸尚蔵館展覧会図録No.79

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成30年1月13日発行

©2018, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan

Art of Various Eras and Countries from Around the World

Sannomaru Shōzōkan Exhibition Catalog No.79

Edited by: The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan
Produced by: TOKYO BIJUTSU Co.,Ltd.
Translated by: Hiroko Kurokawa
Published by: Imperial Household Agency
Published on January 13th, 2018

©2018, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

世界を巡る ― 古今東西の品々を集めて

三の丸尚蔵館展覧会図録No.79

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成30年1月13日発行

©2018, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan

Art of Various Eras and Countries from Around the World

Sannomaru Shōzōkan Exhibition Catalog No.79

Edited by: The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan

Produced by: TOKYO BIJUTSU Co., Ltd.

Translated by: Hiroko Kurokawa

Published by: Imperial Household Agency

Published on January 13th, 2018

©2018, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan